

わたしたちをとりまく大気の温度を気温といいます。

ふだんの生活で暑い、寒いを感じるもとなるのが気温です。ただし、気温が同じでも、わたしたちが体で感じる温度は日差しや風の強さでちがってきます。

気温は「電気式温度計」という気象測器で観測しています。温度計は白金という金属でできており、気温が低ければ電気は多く流れ、気温が高ければ電気は少なく流れる、という金属の特性を利用して気温をはかっています。

空気の乾きや湿りの状態を示すのが湿度です。

日本の夏はむし暑いですが、同じ気温でもそれほどむし暑さを感じないこともあります。これは湿度のちがいによるものです。空気の乾きや湿りは、空気中に含まれる水蒸気の量に左右されます。気温が同じとき、水蒸気の量が多いと湿度は高くなり、水蒸気の量が少ないと湿度は低くなります。水蒸気の量が同じときは、気温が高いと湿度は低くなり、気温が低いと湿度は高くなります。

湿度は「電気式湿度計」という気象測器で観測しています。湿度計のセンサー部分には、水蒸気の増減によって電気的な性質（静電容量）が変化するチップを使っており、この変化をとらえることによって湿度を求めています。

温度計と湿度計は、直射日光や風雨の影響をさけるために「通風筒」という金属製の筒の中に入っています。通風筒の中にはファンがあり、中の空気をつねに入れかえて気温や湿度を観測しています。

